

リスクオフ続くグローバル市場と今後の見通し

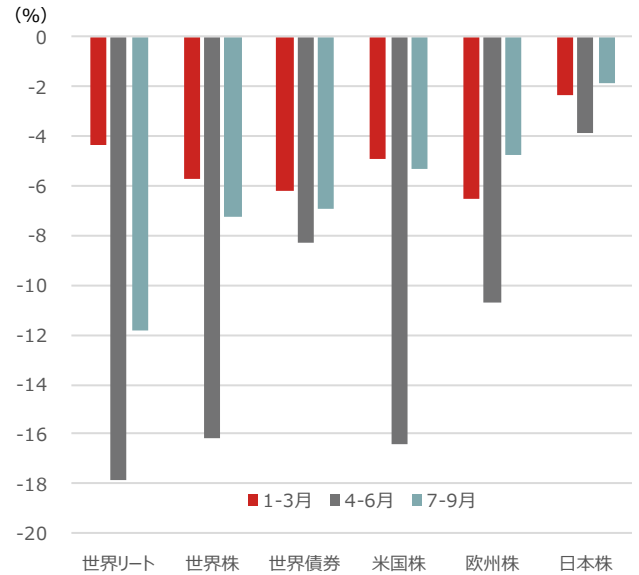


シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 世界の株式・債券・リートの下落続く

2022年相場も残すところあと3か月となりましたが、今年のマーケットは投資家にとって歴史的に厳しいものとなっているかもしれません。9月までのマーケットを振り返ると、世界の株式、債券、リートは3四半期連続で下落しました（右上図）。こうしたグローバル・リスクオフの背景には、世界的なインフレ加速とそれに伴う各国・地域の中央銀行による積極的な金融引き締めが、経済や市場に今後どの程度悪影響を及ぼすのか不透明ということがありと考えられます。足元では英国の大規模減税策に端を発したグローバル規模での金利急上昇が信用不安につながる懸念もくすぶっており、不安定な相場展開は今後も継続する可能性があります。

2022年の世界主要指数の四半期騰落率



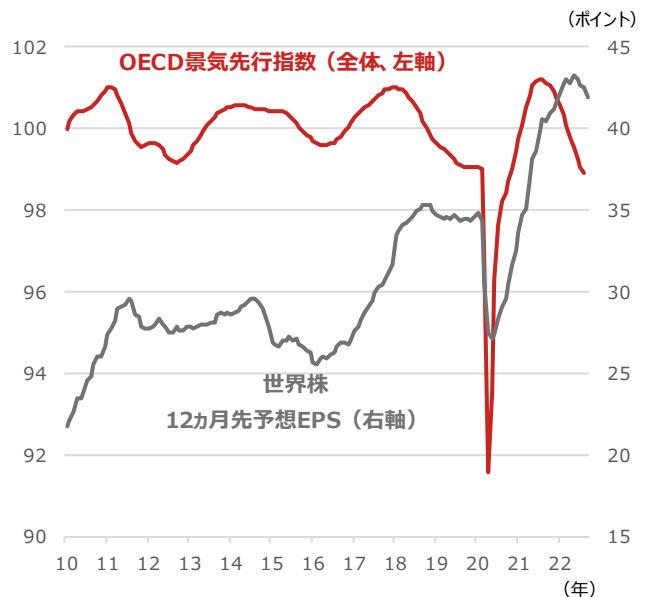
期間：2022年1-3月～2022年7-9月、四半期
 ・世界リートはS&P Global REIT Index（米ドルベース）、世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）、世界債券はBloomberg Global Aggregate Index（米ドルベース）、米国株はS&P500種株価指数、欧州株はSTOXX欧州600指数、日本株はTOPIX（東証株価指数）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

ポイント② 悲観的な材料ばかりではない

中央銀行による金融引き締めは今後も続くこととみられ、利上げが世界景気にブレーキをかける構図は継続しそうです。世界の景況感を示すOECD（経済協力開発機構）景気先行指数は、企業業績との連動性が高いことで知られていますが、同指数は低下基調にあり、世界の企業のEPS（1株当たり利益）の下振れリスクは残りそうです（右下図）。

もっとも、悲観的な材料ばかりではありません。米バンク・オブ・アメリカが公表した9月の機関投資家調査では、同投資家によるグローバル株式の強気割合が過去最低水準となったほか、米個人投資家協会発表のセンチメント指標も市場心理が極度の弱気状態にあることを示すなど、悪材料の織り込みが投資家の間で進んでいることを示唆しています。世界的なインフレや金融引き締めに変化がみられれば、リスク資産を見直す動きが強まりやすい環境にあることも意識しておいた方がよさそうです。

OECD景気先行指数と世界株の12か月先予想EPS



期間：（OECD景気先行指数）2010年1月～2022年8月、月次
 （世界株12か月先予想EPS）2010年1月末～2022年9月末、月次
 ・世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。